

学生の皆さんへ「令和4年度の始業にあたって」（4月8日、校長講話）

おはようございます。校長の田村です。

1年生は、いよいよ高専生活のスタートですね。2年生以上の皆さんも新しい年度のスタートです。気持ちをリフレッシュして、そして、今年こそは、と強い信念を持って、自らの次の目標に向かって邁進してください。

ご存じのように、本年4月1日から、成年年齢が18歳に引き下げられました。新5年生、新4年生は、既に成人です。新3年生は、18歳の誕生日に成人になります。新たに成人になられた学生諸君にはおめでとうございます。ただ、この法律改正にあたっては、政府が極めて慎重に議論を重ねてきたことをご存知かと思います。なぜ、それほどまでに議論が必要であったかということをよく考えて頂きたいと思います。しかし、選挙に参加する権利を得たということは、極めて大きな意味を持っています。どうか、平和な国を作るという強い信念を持って、成人として社会活動に参加してください。本校では、2020年11月に「いじめ・ハラスメント撲滅宣言」を発表しています。強い気持ちで「命や人権を大切にし、平和な社会をつくる人を育てる」学校を目指しています。

さて、本校では、正門を入れて正面に本館棟がありますが、その校舎の前に、本校を守る六人の巨人のように6本のヒマラヤ杉が立っています。2年生以上の学生諸君は、この木が春休みに綺麗に剪定されたことに気づかれたでしょうか。

今年の3月に、2011年の3月11日に発生した東日本大震災から11年を迎える中で、とあるヒマラヤ杉にまつわる記事が目にとまりました。

それは、震災による津波で、甚大な被害を受けた宮城県女川町にある小学校に立っているヒマラヤ杉の話です。人口約1万人の女川町ですが、この津波で町の70%の家屋が全倒壊し、約1,000人の方、つまり十人に一人の方が死者行方不明者になりました。

その女川町の小学校の校庭に立っているヒマラヤ杉が、巨大な津波をともに受けたにも関わらず、倒れることもなく立っていたそうです。震災の後、しばらくして、その小学校の校長先生が、子供たちに、なぜ、このヒマラヤ杉は倒れなかったのでしょうか、と問いかけました。

すると、ある男の子が「根っこがしっかりしているから、負けなかった。」と答えました。おそらくこの話を聞いておられる学生諸君も、同様に即答されると思います。私も一瞬その答えが浮かびました。

しかし、そのあと、一人の子が手を挙げます。その子は、津波でおばあちゃん、お母さん、そして、お姉さんを失った女の子でした。彼女は、「何千人もの卒業生や多くの人たちに、優しく、温かく見守られてきたから、負けなかったんだと思います。」と答えました。

そうですね。こちらの答えが本質を捉えています。私もこの女の子に「参りました。あなたの答えが正解です。」という思いです。このヒマラヤ杉も、生まれ

た時は小さな苗木です。その場所に植えられて、小さなうちは水やりも必要だったでしょう。少し大きくなった頃には、台風や大雪に備えて、添え木や雪囲いといった備えをしてもらったことでしょう。何千人もの卒業生や多くの人に支えられた結果として、しっかりと根を張ることができた、ということです。

私たち人間の成長も同じです。置かれた場所でしっかりと自立できるようになるまでには、いろんな人や社会に見守られているということです。

今、本校の校舎を西日や西風から守るように、強く凜と立っているヒマラヤ杉を見上げる時、そんなことを思いながら、毎日の勉学を頑張り抜いていただければと思います。

本日の講話は、以上です。これからもコロナには気をつけながら、充実した1年にしましょう。



令和4年4月1日 校長室から見るヒマラヤスギ